おわりに

この採訪資料の二篇を御一読いただければわかるように、この時に「来訪神」として扱かった範囲は、従来言われているようなマレビトガミ・オトヅレガミ・去来神といったものにあまりこだわらなかった。それは既成の「来訪神」の概念を基本から見なおしてみたいと考えたからである。その結論は、これと同じテーマで行なった宮城・山形・新潟・石川・長野の各県の資料の公表と、今後さらに継続して行なう予定の採訪結果とを待って明らかにして行くことになろう。ただ、これまでの採訪に基くいちおうの考察は、近々『雪国の来訪神』として別に出版することになっている。

この時にお話を伺った方々は、すべて突然に訪れたのにもかかわらず、快く貴重な事項をお教えてくださった。うれしいことであった。数人の方々にはうっかりしてお名前と生年とを伺い忘れてしまった。申訳ないことだと悔いている。その他にも、大日堂舞楽の関係者や鶴形の方々はもとより、次の方々には資料や情報の御提供をいただいた。厚く御礼申上げる次第である。

八幡秀男氏（安代町）

鹿角市役所商工観光課・鹿角市史編纂事務局（山口氏）・鹿角市教育委員会・鹿角市文化財保護協会・十和田図書館・工藤寿夫氏・奈良寿氏（鹿角市）

山口弥一郎氏・山田福男氏（比内町）

板橋範芳氏（大館市役所市史編纂室）（大館市）

二ツ井町役場・公民館（二ツ井町）

能代市役所商工観光課・建設省能代工事事務所（菊地氏）（能代市）

また、ちょっと道でものを聞いたり、たまたま通りがかって車に乗せてくださったりした方々にも、実は大きな恩恵をこうむっているのである。どうもありがとうございました。そして、学園・本学、ことに学術委員会、さらに早稲田大学印刷所にも感謝している。